
時間屋 ~The time guardians~

寂夜零

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

時間屋 / The time guardians

【NZコード】

N4632D

【作者名】

寂夜雫

【あらすじ】

時間屋 / The time guardians その名の通り、時間を守る人。略して時間屋各学年に4人しかいない時間屋と呼ばれる存在に、特例の5人目！？

序章／10時15分及び遅刻／

タツタツタと走る音が、妙に廊下に響く。首にマフラー、手には指なし手袋をはめた少女が長廊下を小走りで走っていた。

時刻は10時15分。ちょうど一校時目の授業が佳境に入っている頃だ。

2年A組の華宮初音はこの日、前日顔に蕁麻疹が出たため学校を休む予定だった。

だが、思いのほか病院がすいていたので診察が早く終わつたため遅刻して学校へ登校していた。

階段を二階分一気に駆け上がり、田当ての教室へとたどり着いた。ハア・・・流石に鞆もつて一段飛ばしはキツイ・・・初音は息を整え、教室の扉に手をかける。いちおう欠席届を出したので、みんな驚くだろう。

普通の顔をして入ろう！――

意気込んで扉をガラツと開ける。

「おはよーございます」

2・A全員の顔がこちらに向く・・・はずだつた。だが、教師はおろか生徒は誰一人初音のほうを向こうとしない。3人の男子生徒をのぞいて。

「あ、おはよう」

3人の生徒はあるうことか、授業中だと言うのに立ち歩いていた。今の時間は社会、何もたつて歩く事はないはずだ。

「は、初音？お、お前学校休むんじゃなかつたのか？」

初音に聞いてきたのは今本潤。イマモトジユン

「うん。そのつもりだつたんだけど・・・病院が空いてたから学校來たのよ」

「へえ・・・そうなのか？・・・初音、お前今何ともない？」

いささか引き攣つた表情で、佐柄木千裕サエキチヒロが尋ねてきた。

それは尋麻疹のことを聞いているのだろうか？

「尋麻疹だつたら平気だけど？ 昨日薬貰つてきたし。それより、あ

んたたち立ち歩いて平気なわけ？ 今つて社会の時間よね？」

そう言つてからふと気がついた。どうして自分は喋つているのに注意されない？ それ以前に、何故教師は一言も喋つていない？ 普通おはようくらいは言うはずだ。

それと、もう一つ重大なことを気がついてしまつた。この3人を抜かして、手を動かしている生徒が一人もない。どういうことだ？

「ねえ、どうして皆手動かしてないの？」

初音が問うと、3人の顔がますます引き攣つた。

その時、校内放送が流れた。

「光介！ 潤！ 千裕！ テメエら早くスイッチ押せやボケ！！」

ブチッと言つて切られた放送の余韻が、教室中に充満している。

「千裕、どうすんだよ？ 早く行かねえと師匠教室にまでくるぜ？」

「…仕方ねえだろ。光、お前はこいつのこと頼む。潤、スイッチ。俺は準備しておく」

わけの分からぬ急展開に初音はついていけず、ただ呆然としていた。

千裕は教室を出て行き、4階へと向かう。

「え、千裕どこ行つたの？ つてか潤！！ 勝手に弥生のパソコン起動していいのー？」

初音の学校は中高連携校のため、全教室がパソコンになっている。そのため生徒はデスクトップ型のパソコンを所持していた。

「ねえ弥生、潤が勝手に・・・グエツ！！」

潤にやめろと言いに行こうとしていた瞬間、松田光介にマフラーを引っ張られ窒息しそうになつた。

「この、何すんのよー！」

光介に右ストレートを食らわせようとした。が、パシッと受け止められ首をしめられた。

「あつ・・・ちょ、死ぬつて!! 光介!! 光介さん、死ぬから!!」

「マジで…」

いつのまにか千裕が教室に戻つて来ていた。手には見かけないバッグを持つている。

「潤、いいか？」

「あと10秒…5…4…3…2…1…今！」

潤が今、と言つた瞬間、弥生の前の席である生徒の机の中に千裕が飛び込んだ。否、吸い込まれた。

続けざまに潤も机に飛び込み、2人が居なくなつた。

初音はその光景を唖然として見ていた。光介に至つてはあくびをしていて余裕綽々だ。

「光介・・・」「何」「夢だよね?」「俺首絞めてるけど・・・痛くないの?」「痛い、だから力強めないで・・・」

光介とのやり取りの後、初音はがっくりと首を絞められながら肩を落とした。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4632d/>

時間屋～The time guardians～

2010年10月9日01時31分発行